

## 【入学式 2021 式辞】

名古屋柳城女子大学こども学部に入学者の皆さん、名古屋柳城短期大学保育科に入学者の皆さん、そして専攻科保育専攻に入学者の皆さん、あらためて、皆さんのご入学を心より歓迎します。

昨年の始め頃より感染拡大を見せはじめた新型コロナウイルスは、2020年度の一年間にわたり、わたしたちの生活を大いに不安の渦に巻き込みました。毎年暮れに京都の清水寺で行われる、一年を振り返り、その一年を大きな筆で、漢字一文字で表すという企画においても、昨年の一文字には、三密などで使われる「密」という字が選ばれました。

新しい生活様式を取り入れながら、大学・短大を受験して合格した新入生の皆さん、また、本学に在学しながら対面と遠隔の授業を交互に受けながら進学した皆さん、このような皆さんと共に、こうして一堂に会する形で、今年の入学式を行うことができることに、わたしは、例年にもまして、深い感謝の念を抱いています。

さて、柳城学院は今年で創立123年目を迎えます。二つの大学と三つの附属幼稚園から成る学院ですが、その心とも言うべき建学の精神は聖書の言葉に由来する「愛をもって仕えよ」というものであります。

ところで、この「愛をもって仕える」という言葉はどのように捉えることができるのでしょうか。言葉というものは、たしかに、それを受け取る人によって捉え方が異なりますから、さまざまな解釈が可能でしょうが、わたしは、この言葉を、ときどき、次のようなイメージで捉えることがあります。それは、「自分が関わる相手（その相手が大人であれ子どもであれ）が、その人の人生の主演となるようにお手伝いすること」、もう少し別の言葉で言うならば、「自分が関わる相手が、本当にその人自身の人生を歩むことができるように手助けすること」、このように考えてみる必要があります。

わたしたちが関わる相手の人や子どもがそのような歩みをしていくためには、相手のことを単に知識として知るというだけでなく、相手のことをよく理解していくことが必要とされます。英語で「理解する」という言葉は、*understand*と表現します。*under+stand*は、下に立つ、あいだに立つという意味合いをもっています。相手のことを理解するためには、下に立ったり、あいだに立ったりしながら、こちら側のポジション（＝立ち位置や姿勢）を変えていくことが必要である、ということでもあります。

涙するこどもを前にして、こどもと視線を同じくして、いや場合によっては、そのこどもよりも視線を低くして屈みながら関わることもあるでしょうし、喜んで走り寄るこどもを大きく包み込むようにして子どもと喜びを分かち合うこともあるでしょう。相手を理解しようとするとき、わたしたちの身体の立ち位置や姿勢には動きが伴うことが少なくありません。

「子どもを学び、子どもに学び、共に学ぶ」、これは名古屋柳城女子大学のこども学部の学びの特色を、端的に示した言葉ですが、子どもを理解するために、私たちは、いろいろな動きをすることが必要であることを感じさせるフレーズでもあります。

ここにいる皆さんは、「保育者になりたい」という思いをきつと胸に抱いていることでしょう。そして、皆さんの「保育者になりたい」という思いを応援し、支えてくれた人、あるいは、今も、支えてくれている人の存在については、皆さん自身がよくわかっていることでしょう。その人たちは、皆さんをこの入学式の場所に連れてきてくれた、皆さんにとってのよき理解者なのだと思います。

これからの二年間ないしは四年間、みなさんは保育の学びを続けていきます。保育や幼児教育に関わる専門的な知識や、こどもと関わるための多くの技能を是非とも体得していただきたいと願っています。そしてそのような中で、こどものことを理解することのできる保育者へと成長していただきたいと、心より願っています。

皆さんの二年後あるいは四年後の保育者の姿を想像しながら、今の皆さんにどのような漢字一文字が浮かんでくるのでしょうか。これまでの自らの歩みを振り返ることはもちろん大切なことですが、自らの将来を描くことも、それに劣らず大切なことです。

今日は、こうして一同に会して入学式を行うことはできましたが、残念ながら、保護者やご家族の方々をお招きすることはできませんでした。皆さんを今日まで支えてくださり、皆さんに理解を示してくださっているご家族の方々に対する感謝の思いをもちながら、自らの将来を描くための筆をおろすとき、そして、周りにいる仲間をはじめ、出会う人びとを理解するために動き出すとき、それが入学式です。

**皆さん、将来に向かって、第一歩を踏み出しましょう！** 入学おめでとうございます。

(名古屋柳城女子大学・名古屋柳城短期大学 学長 菊地 伸二)